

口蹄疫を疑う症例に対する初動防疫対応について

紀北家畜保健衛生所

○山本敦司 藤原美華 柏木敏孝

【背景及び目的】

平成22年11月10日、管内の黒毛和種一貫経営のA農場において、口蹄疫を疑う症例が発生し、県下で初めて検体の採材や緊急消毒、防疫計画準備等の初動防疫を行った。

PCR検査が陰性のため防疫計画は実行されなかったが、通報を受けてから防疫計画準備までの動きは、「口蹄疫防疫指針」「口蹄疫発生時行動マニュアル家畜保健衛生所版」や「口蹄疫全国机上防疫演習」の計画どおりには動けなかった。

そこで今後の発生に備え、今回の初動防疫の問題点等を検討した。

【通報から立入検査まで】

午前8時50分頃A農場従業員から

「口から泡、よだれを出している牛がいる。」と通報があった。

『問題点1』

この通報では、携帯電話の電波状態が悪く、詳しい状況、例えば発生経過、症状（口、蹄部および乳頭等の水疱、糜爛、流涎、跛行、発熱、下痢等）、家畜の移動状況等の聴取を十分にできなかった。

（図1）

『問題点2』

また、通報時、届出者への指導事項を連絡できなかった。（図2）

『問題点3』

聴取が不十分だったため、口蹄疫の可能性についての判断を躊躇し、畜産課への連絡は発生農場に出発した後になった。

『問題点4』

立入検査は2名で行い、検体搬送者は帯同しなかった。（図3）

【立入検査等】

図4のとおり詳細に疫学的情報等を聴取し、家保に連絡した。

症状を呈した牛は2頭あり、体温、食欲は異常ないが涎を多量に流出。口腔・鼻腔粘膜、蹄部および乳頭等に水疱、糜爛、潰瘍はな

かったものの、舌の辺縁部前面等に潰瘍を発見し、口蹄疫の疑いがあると判断した。(図5)

家保に結果を連絡し、検体の搬送と消石灰の搬入を指示後、農場従業員には、口蹄疫の疑いがあることや検体の採材等について説明した。

【採材等】

病変部の撮影は牛が暴れるため、鎮静剤の投与が必要と今更ながら感じた。

『問題点5』

撮影の順番を詳細に説明しなかったため、撮影した写真がどの個体を写したのかの混乱があった。このことに対しては、A牛の耳標番号→A牛の病変→B牛の耳標番号→B牛の病変・・・等のように事前に撮影順番を決めておくことが重要である。

また、防水の携帯電話で撮影すると、写メールが使えて非常に便利だった。

『問題点6』

今回、病変部に水疱が無かったので病変部ぬぐい液と食道咽頭液を採取したが、液体窒素等による冷凍保存ではなく氷冷保存のため、後に動衛研から指摘を受けた。採材には液体窒素かドライアイスが必要であり、採材方法は正確に把握しておく必要がある。

発生農場出入口を1カ所に制限し、農場立入禁止の境界線を早急に設定し、検体受渡しを行った。

【緊急防疫措置等】

『問題点7』

農場飼養家畜を「患畜となるおそれがある家畜」として取り扱うこととし、隔離指示書を交付しなければならないところしなかった。

緊急消毒として農場内に消石灰を散布したが、袋数に限りがあるため、①疑い症例の牛がいる隔離牛舎周辺、通路、②疑い症例の牛がいるパドック周辺、パドック内周を優先し、③隣接している分娩牛舎の周辺、通路、④肥育牛舎の周辺、通路の順に散布するように従業員に指示した。(図6)

【埋却予定地等の選定】

『問題点8』

以前に聴取選定していた場所が埋却不可能となり、急遽新たな埋

却場所を選定した。新たな埋却予定地を至急確認し、通行可能な重機の大きさやその通行経路等を決定した。

殺処分場所も選定し、作業の動線を確認した。

【防疫計画等】

『問題点9』

殺処分に必要な資材等の準備はスムーズにできたが、殺処分・埋却作業等の人選や作業計画、周辺農場検査の計画、現地防疫センターの計画等の設定に時間を要した。和歌山県口蹄疫対応マニュアルでは、家保は、現地防疫対策室として防疫計画（案）を作成することになっている。

【畜産課との連絡内容について】

『問題点10』

家保に戻り、畜産課と通行制限計画や埋却計画等の防疫計画についての連絡をしたが、対応者それぞれの内容がやや異なり、家保だけでなく、畜産課内の混乱も感じとれた。このことから、畜産課と家保の役割をもう一度明確にしておく必要がある。

【病性鑑定結果の連絡】

平成22年11月11日深夜1時30分頃、PCR検査陰性の連絡を受け、直ちに所有者等への指導事項を解除し、翌日から疑い症例の原因究明にとりかかった。

【まとめ】

様々な問題点が出てきたが、通報時の不十分な聴取は、判断や対応に迷いが生じ、連絡の遅れにつながる。また採材方法は正確に理解しておく必要があると感じられた。防疫計画は、県口蹄疫対応マニュアルでは家畜保健衛生所が作成することになっている。今後も防疫計画の急な変更や予期せぬ事態も想定されるので、早急な判断・決断が必要である。